

メカニックがコツコツそり教える……

プロの秘テクニク

●アマチュアメンテとの差は、こんなところに見られる！



メンテナンスでクルマをショッ
プに預けた際、メカニックから「〇
〇も気になったから、ついでに調整
しといたよ〜」なんてことを言っ
てもらった経験、少なからずあるの
ではないだろうか。乗ってみると、確
かに言われた通りフィーリングが
ちょっと良くなっていたりして「さ
すがプロは違うねえ」なんて感心し
てしまう一場面である。

このようにならなくなったコツヤノ
ウハウは、やはり毎日クルマの中身
を見続けているプロメカニックなら
ではの視点によるもの。ではその「視

秘プロ セントラルオート
児玉 善一郎氏

本誌のメンテ記事でもたびたびお世話になっている、セントラルオートの児玉善一氏。気さくな人柄に加え、気になったことはたとえ悪い知らせでもハッキリ言ってくれるという本音トークが、多くのオーナーに信頼されている大きな要因だろう。

「点」が、一体どんなところを見ているのか？ そんな気になる部分をちょっとだけ教えていただくというのがこの企画だ。

クルマというのは、様々な役割を持った数多くのパーツが組み合わさって構成されている。それらはクルマを走らせるため密接に関連し合っているの、仮にある一つのパーツが壊れた場合、その周辺にも悪影響を及ぼすことがある。また逆に、全体的にやれているクルマの一部分だけを新しくすると、その負担が他の部分にのしかかって新たなトラブルを誘発するといったケースもある。つまり、長い目で見てクルマを効率的にリフレッシュしていこうと思つたら、メンテナンスは単発的な「点」ではなく、計画性のある「線」で行なっていくことが望ましい。

単純に壊れた部品を替えるだけなら、マニュアルと工具があればDIYでも何とかできる。しかし、それ

メンテの「コツ」から整備計画まで「プロの視点」を見てみよう

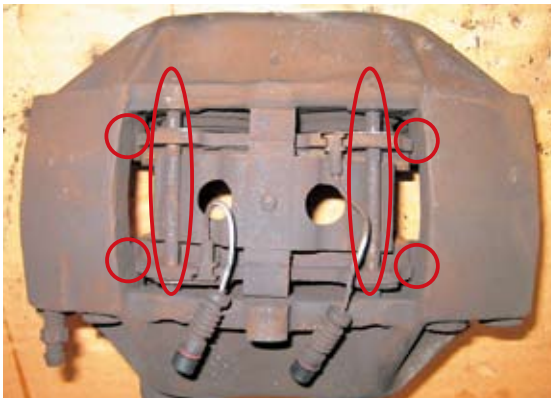
セントラルオートでは、目的の修理個所以外にも問題を発見すると、それをお客さんに説明して今後のメンテ計画を考へてくれる。

によってこの先どんなことが起こり何が必要なのかを予測するのは、先に述べたプロの視点が必要。この点があまの大きな差である。

では、DIYにも役立つチョイ技から長期メンテの考え方で、プロのテクニクをご覧いただく。

何事にも、その道のプロならではのテクニックやノウハウというものがある。メンテナンスもまた然り、素人では思いも寄らないコツを、プロは持っていたりする。そんな、普段はなかなかお目にかかれない「マル秘テク」を、ここで少しだけ教えてもらおう！

撮影・文 = GERMAN CARS 編集部
協力 = セントラルオート



ブレーキパッド交換のワザ

ブレーキパッドを交換する際にも、プロは鳴きを防止するために実に細かい仕上げを行なう。写真の丸で示した箇所が、その主なポイントだ。



パッドをキャリパーに固定しているキャリパーピン。これを交換の際に掃除することで、鳴き防止に効果を発揮する。



パッドの側面とキャリパーが当たる部分も、効果の差が出るポイント。パッドを外したら、ここの汚れを丁寧にブラシで掃除する。



キャリパーピンは、ちょっと磨いてやればきれいになる。これをやるのとやらないのとでは、最終的に大きな差が出るということだ。



掃除に使用するブラシは真鍮製のものを使う。他の金属ブラシを使うと、パーツを傷つけてしまう恐れがあるので注意。



ピンと干渉する、スプリングの写真で示した部分も磨きポイント。要するに他のパーツに触れる部分を掃除しておくのだ。



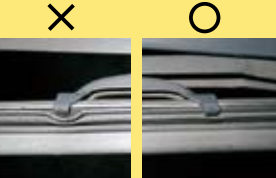
ピストンがパッドに当たる部分(丸い跡が付いている部分)には、パッドグリスを塗る。このあたりは基本通りだ。

CAUTION!!……ブレーキは重保安部品です。十分な知識や設備がない場合は、DIYでの作業は避けましょう。

■こんなところにも小さな気配り■



DIYでワイパーゴムを交換したメルセデスに多いミスが、溝のかけ違いと取り付け方向の間違い。これがあると拭きムラが出たりゴムが外れたり、思わぬ二次災害を引き起こす危険がある。取り付け方向は、左の写真のようにロック溝がある方が外側、シヨップが気づけば直してくれるが、簡単なことなのでオーナー自身が注意しておくこと。



このように溝にきれいにゴムが入っていないと、拭きムラが発生する原因になってしまう。

メカニクの秘テクニック その1

見えない場所に気を配る +アルファの「ちょいメンテ」

簡単な作業に見えるようでも、実は細かい芸が隠されているのがプロの仕事。その一端をここで見せていただく。

基本的な作業ひとつにもこれだけの技が隠れている

シヨップメカニクの多くは、基本的にはクルマ好き。だからお客さんから頼まれたメンテナンス個所以外でも、目についた小さな気配りになる部分があれば、ちょいちょいと手直ししてくれるのはよくあることだ。

児玉さんも、バッテリー交換の際にエンジンルームを軽く掃除してやったり、配線が散らかっていたらそれをまとめて取り回してやったりと、明細には載らない細かいケアを適宜行なっているという。

また、一般的なパーツ交換の際にも、プロならではの蓄積されたノウハウによって、仕上がりのクオリティに大きな差が出るようだ。

「例えばブレーキパッドの交換を例にしてみよう。交換の作業自体は難しいものではないけれど、実はパッドの鳴きを防止するために、色々な部分にちょっとした手を加えています。

ブレーキパッドはその摩擦によってズレが生じ、それが鳴きの原因になるわけですが、キャリパーとパッドを止めているキャリパーピンや、そのピンを押さえるスプリングなど、パーツ同士の干渉部分を磨いてやると、この鳴きをかなりの割合で解消することができます。

こういったことは、僕らにしてみればマル秘というわけでもないけれど、意外とちゃんとやっている人は少ないような気がしますね」
基本的な作業ひとつにも、これだけのことが行なわれているのだ。

オイル交換を 下抜きで行なう 理由とは？



オイル交換のためにリフトアップすることによって、下回りの簡単なチェックができる。ここから後に繋がるアドバイスもできるのだ。

最も基本的なメンテナンス項目であるオイル交換にも、プロはちょっとしたポイントに注目している。

「最近ではポンプで上から抜いて交換する方法も多いですが、我々は今でも下抜きで行なうことを心がけています」と言う児玉氏。その理由を尋ねると、やはり交換時にリフトアップするというのが一つの要ポイント。それによって下回りのチェックも同時に行なうことで、水漏れやオイル漏れをいち早く確認することができ、今後のメンテナンスも立てやすいというのだ。こうした一つ一つの確かさこそが、プロに要求されるレベルなのかもしれない。

メカニックの秘テクニック その2

整備の時にプロがついでに見ているのはこんな場所

良心的なメカニックであれば、整備のついでに様々なところを見ているもの。その「見るべきポイント」を拝見させていただこう。



ファンベアリングは、破損すると非常にやっかいな部分。エンジンルームを開ける時には、手を入れてガタをチェックしているという。

弱点を知っているからこそ気づくポイント



**弱点を知るからこそ
的確なチェックができる**

エンジンルームを開けた時や下回りを覗いた時、メカニックは本来の工程のついでに、ちょっとしたチェックを行なっていることもある。そこで何を見て、どんなことを行なっているのだろうか？

「車種によって見る場所は違いますが、基本的には弱点となるポイントを見ます。W124世代なら、エンジンルームを開けた時によくチェックするのは、ファンベアリングやファンレジスターなど。仮にベアリングが破損すると、その周辺パーツにも大きなダメージを与えるので、ガタがないかは確認しておきますね。ファンレジスターはサビや皮膜が硬くなったりしているケースも多

いので、そういう時は配線を作り直したりもしています。

また、ベルトを交換した時はテンションナーやアイドラープリー、ウォーターポンプも見ます。そうすれば後に何かあった時、ある程度予想がつけられますから。

下回りはショックブーツ、パンブラバーが劣化しているクルマは多いですね。状況によってはアッパーマウントまで含めて見ます」

どこが弱点を知っているからこそ、短時間で的確なチェックと処置を行なうことができるのだ。



ブーツやパンブラバーが切れているクルマは多い。その時は交換の提案をしているという。



クーリングファンの低速回転を制御するファンレジスター。動いていない場合は、ハンダ付けや配線の作り直しなどを行っている。



ベルトを張り替える場合はテンションナーやプリーもチェック。ウォーターポンプは回して確認したりもする。

メカニックの秘テクニック その3

効率良くメンテを進める メカニックとの交渉術

お客さんのオーダーに対して、メカニックはどのようなことを考えているのか？ それに分かれれば、相談もスムーズに行なえるはずだ。



リングギアの奥にあるクラウンクシールは、ミッションを降ろす際にはぜひ同時交換しておきたい部分。2度手間になると当然、工賃も割高になってしまう。



最後に、クルマ全体を効率良くメンテナンスするための心構えを、児玉さんにかがった。

「エンジンやミッションは、自分でやるわけにはいかなないのでショップに任せてもらうことになりましたが、効率的に進めるためにはまず、付随する部分を同時にやってしまうのが基本です。ミッションを降ろすのだったらリアのクラウンクシールやATマウントなども、といった具合に。そのためにメカニックとしてお願いしたいのは、できれば『プラスアルファの予算』を持っておいで欲しいということ。仮にエンジンだけを100%の状態に仕上げたとしても、近い将来その負担が別のところに出てくる確率が高い。実際バラしてみると、こっちもやった方がいいなという部分はよく出てくるので、そういった状況になることもある程度予想して、予算等の計画を立てるのが良いでしょう」

取材協力/セントラルオート



本誌でもすっかりおなじみの、メルセデス・ベンツ専門ファクトリー。技術は高いが気構える必要はなく、初めてでも丁寧に対応してくれる雰囲気も魅力だ。相談すれば悩みを解消する様々な提案を出してくれることだろう。

東京都足立区南花畑 2-44-4
TEL.03-3883-9922
<http://www.central-auto.org/>